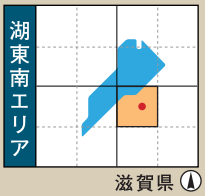
史跡
県指定

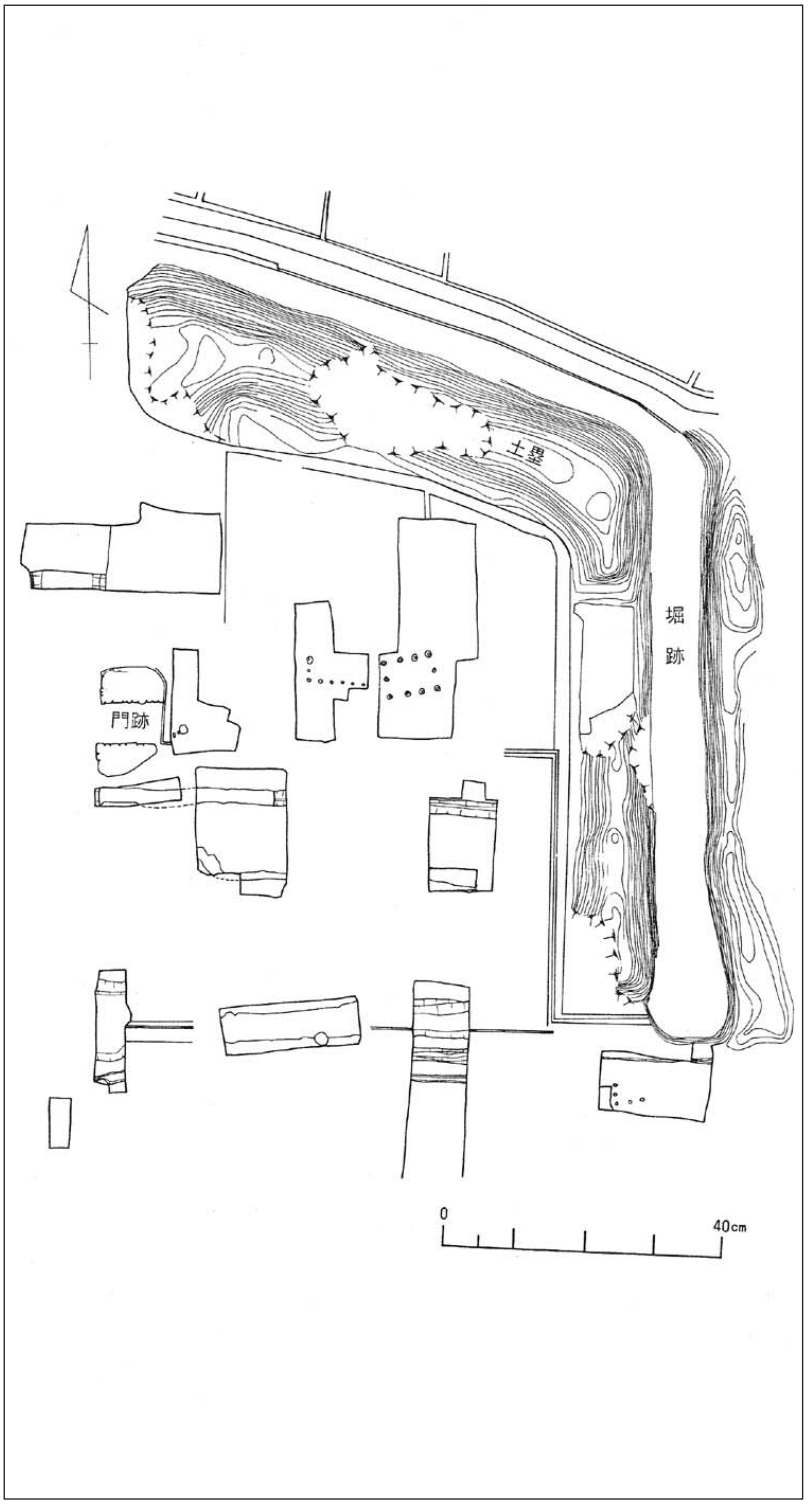
# 後藤館跡（ごとうやかたあと）

八日市市中羽田町　昭和58年3月28日指定




後藤館跡は、近江守護佐々木六角氏の重臣、後藤氏の居館の跡です。平地に造られた、典型的な平地居館の遺跡として大変重要な遺跡ですが、六角氏の衰退の原因となった「観音寺騒動」の主人公の居館として、歴史的にも大きな意義を併せ持つ遺跡です。

| 当時のできごと | |
|---|---|
| 1560年 | 桶狭間の戦いで信長勝利 |
| 1563年 | 三河一向一揆が起き、翌年家康が鎮圧 |
| 1567年 | 観音寺騒動を受け六角氏武目を制定 |




後藤館跡平面図

## 後藤館の構造

後藤館跡は、佐々木六角氏の奉行人、後藤氏の在地居館跡です。「後藤堀」の字名が残り、水田の中に土塁、堀、門跡などを明瞭に見ることができます。現在、土塁は北と東に残るのみですが、明治期の地図では、西と南にも土塁が表現されており、このことは発掘調査でも確認されています。館全体の規模を復元すると、西辺の南北が約120m、東辺の南北が約100m、東西幅が約100mの台形状平面形となり、その外側に幅6～10.5mの堀を巡らす構造となります。館内部で部分的に行われた発掘調査の結果、石積みを部分的に用いた門の跡と、堀を渡る木橋の礎石などが見つかっています。また、堀跡からは室町時代後期の遺物類が出土しています。

後藤氏は、この館の他に、六角氏の本城観音寺城（学習シートNo.030）の北に、有事の際に利用するための城郭、佐生日吉城（さそうひよしじょう）も構えていました。



後藤館跡に残る土塁

# 六角氏と後藤氏

六角氏は、近江湖東、湖南を支配した守護大名ですが、最後まで強力な戦国大名へ脱皮することができませんでした。これは、この地域の複雑に入り組んだ土地支配や、高い生産性を背景とした自立性の強い領主層を完全に屈服させ、支配権を維持することができず、在地領主との連合政権的な支配体系をとらざるを得なかったためです。

このことから、湖東、湖南地域には傑出した大城郭は現れず、ここで紹介する後藤館を始め觜江氏の觜江城（愛東町觜江）、目加田氏の目加田城（秦荘町目加田）、蒲生氏の音羽城・鎌掛城（日野町音羽・鎌掛）、小倉氏の佐久良城（日野町佐久良）、永原氏の小堤城山城（野洲町小堤）など、中規模の城郭を各領主がそれぞれ構えることとなります。

六角氏の本城である観音寺城にしても、各家臣の屋敷を雛壇状に配置した防御性に乏しい構造で、あたかも、六角氏の支配形態を表しているようです。



後藤館跡土塁と掘



門跡に復元した石積

## ［観音寺騒動］

六角氏が滅亡するきっかけとなったのは、これらの領主達の造反によるものでした。永禄6年（1563）18歳で六角家の家督を承禎から譲られた義弼は、六角氏に忠誠を尽くしてきた後藤氏の力を恐れ、翌年10月、後藤賢豊父子を観音寺城に呼び出し、その途中で父子を惨殺してしまいます。これを聞いた城内の重臣は観音寺城に放火し、それぞれの館に退き、湖北の浅井氏と結び観音寺城を攻め、義弼親子を観音寺城から追い出してしまいます（この一連の争乱を観音寺騒動といいます）。

この家臣団との確執がきっかけとなり、六角氏は力を弱め、遂に元亀元年（1570）織田信長により滅ぼされてしまいます。

## 関連する文化財

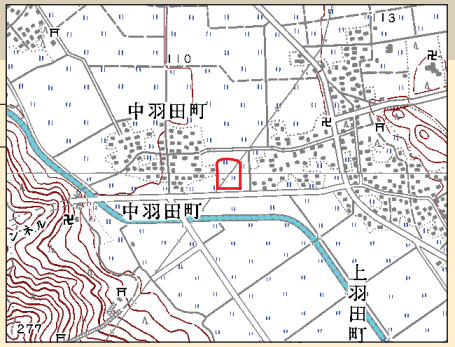
| | |
|---|---|
| **観音寺城跡**（安土町・五個荘町） | 学習シートNo.030 |
| **佐生日吉城跡**（能登川町・五個荘町） | 観音寺城の北の守りの要。愛知川を天然の要害とする |
| **小堤城山城跡**（野洲町） | 湖南最大規模の山城。初期石垣が特徴 |
| **觜江城跡**（愛東町） | 佐々木氏が織田信長によって滅ぼされた際の、最後の戦いの場 |

## もっと深く知りたい

**八日市市教育委員会**　☎0748-24-1234　八日市市緑町10-5

**安土城考古博物館**　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

**後藤館跡へのアクセス**　ＪＲ琵琶湖線　近江八幡駅下車
近江鉄道　市辺駅下車




【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月